

FI/Tr

木曾川堤防



Ver.1(2020/2/1)

災害伝承 DATA

所在地：長野県木曾郡木曾町
福島御室（および塩淵）
緯度・経度：北緯 35 度 49 分 55.0 秒
東経 137 度 40 分 44.1 秒
伝承形式：土木構造物・工事
種類 / 要因：洪水・湛水 / 集中豪雨
災害発生：1898 年（明治 31 年）他
建立時期：1899 年（明治 32 年）4 月
指定等：なし
周辺地形：山地・山麓堆積地

言い伝え・伝説

木曾谷の中心を流れる木曾川は、民家直下まで迫る場所もあって、近代に入っただびたび人家・田畑の流失や橋梁の落橋を伴う大規模洪水が発生していました。木曾町福島の御室（みむろ）に、明治 32 年に長野県が行なった堤防建設工事の完成記念碑があります。



観光情報はこちら

周辺案内

記念碑は、「ひとつもつこ山」と呼ばれるこんもりと土を盛り上げたような山の麓に据えられています。伝説があり、出雲の神様が、皆が寝ている間に御嶽山を富士山と同じ高さにしようと岩を「もっこ」に入れて運んだが、もう少しのところまで一番鳥が鳴いてしまいこの場所に岩を捨てて山ができたというものです。